

令和7年度 事務事業評価表

事務事業名	1 ボランティア推進事業		担当	地域福祉係	事業種別	自主事業
開始年度	平成21年度	計画体系	基本目標2ー実施計画1ー(2)ボランティア活動者の育成支援、実施計画2ー(1)ボランティアコーディネート機能の充実、(2)ボランティア活動の支援、実施計画3ー(1)災害時に備えた体制づくり、(2)災害時における支援と連携の強化			
根拠法令等	ボランティアセンター設置及び運営規程、助成金交付規程、初めてのボランティア体験学習事業実施要領他					
事業区分	社会福祉事業	サービス区分	地域福祉サービス区分			
事務事業目的	地域住民のボランティア活動を推進するため、理解と関心を深め社会連帯意識の高揚とボランティア間の交流を図り、組織的なボランティア活動の育成や援助、及び市内小中学校、高等学校の福祉教育の推進を行い社会福祉の増進に資する。					
実施内容	<p>【ボランティアセンターの運営】 () 内は前年度数値</p> <p>1 相談、援助活動、需給調整</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア事業参加者総数 <u>669名</u> (589名) ・ボランティア活動保険加入 加入者数1,611名 (1,665名) ・ボランティア登録 個人38名 (40名)、62団体 (65団体) ・ボランティア活動件数121件 (109件)、活動延べ人数355名 (349名) ・ボランティア活動に関する相談件数168件 (138件) ・ボランティアグループ、個人への継続支援 (必要時にグループの会合に参加し相談、支援を随時実施) ・ボランティア連絡協議会への援助 (活動の場の提供、活動の支援) ※加入団体等の減少により令和7年3月末に解散 ・ボランティアセンター備品貸出 延べ回数：車椅子220台 (184台)、小型点字器232台 (221台)、アイマスク129枚 (115枚)、高齢者疑似体験セット36セット (32セット)、白杖51本 (48本) ・福祉用品等リサイクル事業の実施 提供品33件 (34件)、譲渡品14件 (59件) <p>2 広報、啓発、調査活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社協だより、ホームページ、公式SNSなどを活用してボランティア情報の発信、情報誌配付、チラシ配付 ・ボランティアに関する情報収集 ボランティアコーディネーター連絡会参加、他機関との情報交換 <p>3 ボランティアの育成及び研修活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアのつどい ボランティア研修・交流会、参加者：<u>28名</u> (12名) ・初めてのボランティア体験学習事業の実施 参加者：<u>205名</u> (166名) ・ボランティア講座の実施 <ul style="list-style-type: none"> ①はじめてのシニア向けZOOM体験講座 参加者：<u>9名</u> (10名) ②災害ボランティアセンター運営講座 参加者：<u>19名</u> (26名) ③子育て支援ボランティア養成講座 参加者：<u>27名</u> (0) <p>【ボランティアセンター機能充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアセンター運営委員会の開催：2回実施(2回) ・ハートサロンの運営 活動者<u>9名</u> (8名)、実施17回 (19回)、延べ107名 (113名) ・文京学院大学地域連携センターBICSとの連携 ・その他関係機関、団体、企業等との連携、グループホーム運営推進会議出席 <p>【福祉教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉教育推進校への助成援助 市内小学校13校、中学校6校 ・福祉教育推進校連絡会議 福祉教育実施報告及び事業計画、点字体験 参加者：<u>17名</u> (18名) ・福祉活動推進のための連絡、調整及び支援 <ul style="list-style-type: none"> ①福祉体験学習への協力 小学校12校 (12校)、中学校5校 (5校)、実施回数64回 (56回) ②「福祉教育推進マニュアル」の活用 ③福祉の心を育む交流事業の実施 実施施設：2施設 (2施設)、実施学校：6校 (6校) 					

指標		指標の根拠	単位	区分	R4	R5	R6
成果	ボランティアセンター事業参加者人数	前年度実績	名	目標	220	356	589
				実績	356	589	669
成果	ボランティア活動件数	前年度実績	件	目標	24	56	109
				実績	56	109	121
成果	初めてのボランティア体験学習参加人数	前年度実績	名	目標	136	154	166
				実績	154	166	205

備考	
----	--

コスト内訳(円)		R4	R5	R6	
収入	特定 財源	ボランティア体験学習事業費補助金収入	260,000	260,000	230,000
		地域保健福祉活動事業費補助金収入	180,000		
		一般募金配分金収入 (赤い羽根)			603,000
		特定財源合計 (a)	440,000	260,000	833,000
		一般財源 (b)	1,284,813	1,068,898	712,680
		収入合計 (c)	1,724,813	1,328,898	1,545,680
支出		事業費 (b)	1,724,813	1,328,898	1,504,058
		正規職員人件費	814,300	781,800	694,200
		業務量(人)	0.1	0.1	0.1
		嘱託職員人件費	3,524,370	3,390,390	3,933,270
		業務量(人)	0.87	0.87	0.87
		臨時職員人件費			
		業務量(人)			
		人件費合計 (e)	4,338,670	4,172,190	4,627,470
	支出合計 (f)	6,063,483	5,501,088	6,131,528	

単位当たりコスト(円)		R4	R5	R6
単位の定義		ボランティアセンター事業参加者人数		
実績数値 (g)		356	589	669
単位当たりコスト(円) (f/g)		17,032.3	9,339.7	9,165.2
実質収支比率(%) (c/f)		28.4	24.16	25.21

実施状況に対する 評価	<p>令和6年度はボランティアセンター事業の参加者人数、ボランティア活動回数や活動延べ人数の全てが、昨年度実績より増加となった。新たに地域福祉活動計画の重点項目でもある「地域で子どもや子育て世帯を支える」を担うボランティアを養成する講座の第一歩として、子育て支援ボランティア養成講座を実施した。参加者は子育ての現状や課題を学び、新規ボランティア活動者として活躍の場を広げることができた。</p> <p>また、災害対応力強化のため、災害ボランティアセンター運営訓練を市民と社協職員合同で実施した。この訓練で効率的な運営方法を学び、「災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル」を現実的な内容へと改訂した。今後の運営のマニュアルとして活用していく。</p>
----------------	---

今後の方向性 【拡充】	<p>活発なボランティア活動の推進には、他事業や他機関との協力体制が重要となるため、特に生活支援コーディネーターとの地域活動の情報共有と、新たな事業展開を進める。現存するボランティア団体・個人の活動の支援をするとともに、ボランティアの担い手を発掘するボランティア講座や研修会を協働で実施する。</p> <p>子育て支援ボランティア養成講座は引き続き実施し、前年度終了者のフォローアップとグループ結成に向けての支援を行う。また、初めてのボランティア体験学習事業では、システム導入による参加者の申込みが容易となり、ボランティア活動への関心を高めていく。情報発信にはホームページや公式SNSを活用し、広い年代へとボランティア活動の向上推進に努めていく。</p>
----------------	---

令和7年度 事務事業評価表

事務事業名	2 支部育成・支部活動助成事業		担当	地域福祉係	事業種別	自主事業
開始年度	平成21年度	計画体系	基本目標1－実施計画1－(2)多様な学習機会の提供 実施計画2－(1)社協支部の基盤整備、(2)見守り活動の推進、(3)自治組織との連携強化、(4)子育てしやすい地域づくり 実施計画3－(1)ふれあい・いきいきサロン事業、多世代交流事業に推進 基本目標2－実施計画1－(1)福祉活動の担い手の育成 基本目標3－実施計画1－(2)身近で相談しやすい地域づくり 実施計画2－(1)広報活動の充実、(2)必要な福祉情報の共有と個人情報の保護 実施計画5－(3)コミュニティソーシャルワーク機能の強化、(4)民生委員・児童委員との連携強化			
根拠法令等	支部設置及び運営に関する規程、支部活動助成金交付規程、支部活動推進委員会設置規程他					
事業区分	社会福祉事業	サービス区分	地域福祉サービス区分			
事務事業目的	地域の実情に応じた社会福祉事業を進めるため、自治組織単位を原則とする支部を設置し、小地域活動の推進を図る。またその推進にあたっては社協財源及び共同募金会による支援のもと、支部活動助成金や運営支援活動を行う。					
実施内容	<p>【自治組織に対する支部設置数】（ ）内は前年度数値</p> <ul style="list-style-type: none"> 支部設置数 57支部（56支部）、自治組織数 58自治組織（58自治組織） <p>【事務事業等の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社協会員会費、赤い羽根共同募金、歳末たすけあい募金の募集、日赤会員増強運動への協力 自治組織との共催事業等の実施による連携強化 <p>【会議・研修会等の開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> 支部長会議の開催 4月、9月、2月 ・支部活動推進委員会 7月、1月 支部長交流研修会の開催 11月 参加者42名（41名） ・福祉委員研修会の開催 7月 参加者60名（63名） <p>【社協支部活動への助成支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 支部平等割助成金 570,000円（560,000円）、会費徴収委託、助成金 2,477,520円（2,715,640円）、サロン助成金 754,450円（714,550円）、赤い羽根募金還元事業費 1,100,062円（1,146,946円）、歳末助け合い募金還元事業費 1,913,444円（2,052,104円）、新入学児童お祝い事業等助成金 200,000円（200,000円） <p>【高齢者情報誌「福寿草」の配布】</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎月1回15日発行 1回につき4,870部（4,922部） <p>【支部車椅子貸出事業の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> 貸出30件（19件） <p>【ふれあい・いきいきサロンの実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> 52支部（51支部） 489回（471回） <p>【見守り活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 487チーム（477チーム） 1,600名（1,511名） <p>【新入学お祝い事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 40支部（40支部） 					

指標		指標の根拠	単位	区分	R4	R5	R6
活動	支部長会議回数	事業計画	回	目標	3	3	3
				実績	3	3	3
成果	ふれあい・いきいきサロン開催回数	前年度実績	回	目標	215	403	471
				実績	403	471	489
成果	支部設置数	全自治組織数	支部	目標	58	58	58
				実績	56	56	57

備考	
----	--

コスト内訳(円)		R4	R5	R6	
収入	特定 財源	一般募金配分金収入（赤い羽根）	1,172,959	1,146,946	1,100,062
		歳末たすけあい配分金収入	2,199,660	2,051,354	1,913,444
	特定財源合計 (a)		3,372,619	3,198,300	3,013,506
	一般財源 (b)		3,773,702	3,591,445	3,290,434
	収入合計 (c)		7,146,321	6,789,745	6,303,940
	支出	事業費 (b)		9,872,771	9,523,667
正規職員人件費		5,700,100	5,472,600	4,859,400	
		業務量(人)	0.7	0.7	0.7
嘱託職員人件費		2,835,700	2,338,200	1,808,400	
		業務量(人)	0.7	0.6	0.4
臨時職員人件費					
		業務量(人)			
人件費合計 (e)		8,535,800	7,810,800	6,667,800	
支出合計 (f)		18,408,571	17,334,467	15,978,720	

単位当たりコスト(円)		R4	R5	R6
単位の定義		支部数		
実績数値 (g)		56	56	57
単位当たりコスト(円) (f/g)		328,724.5	309,544.1	280,328.4
実質収支比率(%) (c/f)		38.8	39.17	39.45

実施状況に対する 評価	<p>令和6年度から第3期ふじみ野市地域福祉活動計画の重点項目として「支部活動の安定した取組と強化」が掲げられている。1年目の取り組みとして全支部対象に各支部の実情を把握するためアンケート調査を実施した。その結果、サロン参加者の固定化及び減少、サロン内容のマンネリ化、運営の人手不足など課題が見えた。また、サロンのマンネリ化を打破するためにサロンDE講師を派遣したことで、支部活動は活性化しサロンDE講師の方々は趣味や特技を発表できる場となり相互利益が得られたと感じた。9月に57支部目となるオハナふじみ野上野台支部が設立した。</p>
------------------------	--

今後の方向性 【拡充】	<p>地域福祉活動の柱となる支部活動の充実、社協の事業推進に必要な仕組みであるため取り組みを拡充していく。各社協支部のニーズに応じて活動するボランティアを養成し、新たな担い手の確保（サロンDE講師）と支部活動の安定した運営のために（仮称）支部活動お助けボランティアを養成する。（ちょいボラ講座の実施）</p> <p>全社協支部への聞き取り調査の結果、新たな取組や特に支援が必要な社協支部を2、3支部（清見支部、鶴ヶ岡支部及び福祉「さくら会」支部を選定予定）選定し、SCと協働しきめ細やかな支援を実施することにより社協支部の基盤を強化することを目指す。また、各支部の活動に参加し現状把握に努め、継続的な支援を実施する。</p> <p>令和6年3月時点でふくし東久保支部が解散し、公務員住宅支部及びエステスクエアふじみ野支部が休止となっているため、休止している2支部に今後の対応についてアクションをかける。</p>
------------------------	---

令和7年度 事務事業評価表

事務事業名	3 住民参加型在宅福祉サービス事業 (ふれあいサービス事業・産後ヘルパー派遣事業)		担当	地域福祉係	事業種別	自主事業
開始年度	平成21年度	計画体系	基本目標1-実施計画2-(4)子育てしやすい地域づくり「住民参加型在宅福祉サービス事業」 基本目標3-実施計画3-(4)社協会員同士の助け合い「住民参加型住宅福祉サービス事業」			
根拠法令等	ふれあいサービス事業実施規程、産後ヘルパー派遣事業実施規程					
事業区分	社会福祉事業	サービス区分	地域福祉サービス区分			
事務事業目的	社協会員が地域福祉の一環として会員の相互扶助の精神に基づき、当該世帯の自立と在宅福祉の向上を図るため、必要な費用の負担を求め、提供したサービスに応じて費用を弁償する。 また、産後間もなくの体調がすぐれず、育児不安等のため精神的に不安定になりがちな母親の負担軽減などを支援することを目的に、協力員による家事援助等を行い、母子福祉の向上をはかる。					
実施内容	<p>【利用の流れ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 電話にてサービス内容説明⇒訪問等で利用申請手続き⇒利用希望確認（サービス内容、利用日）⇒協力員マッチング⇒利用券販売⇒サービス利用 <p>【協力員研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> 登録協力員を対象に活動状況報告及び情報交換を実施 令和6年11月21日 参加者8名 <p>【子育て支援ボランティア養成講座（協力員養成講座兼ねる）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市報、社協だよりに掲載し受講者を募集し実施 令和6年9月に「子育ての現状と課題～今ボランティアに求められること～」についての講義と子育て支援ボランティアの活動実践報告、10月～11月にボランティア活動体験を実施 参加者27名 <p>【令和6年度利用実績】（ ）内は前年度数値</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者数 ふれあいサービス 16名 新規7名（13名 新規8名） 産後ヘルパー 15名 新規12名（11名 新規11名） 協力員 33名 新規4名（29名 新規7名） 派遣回数 ふれあいサービス 494回（369回） 産後ヘルパー 166回（157回） 派遣時間 ふれあいサービス 642.5時間（506.75時間） 産後ヘルパー 285時間（281時間） 					

指標		指標の根拠	単位	区分	R4	R5	R6
成果	ふれあいサービス 新規利用者数	利用者数の2割	名	目標	4	2	2
				実績	0	8	7
成果	産後ヘルパー新規 利用者数	前年度実績	名	目標	19	7	11
				実績	7	11	12
成果	新規協力員数	養成講座定員の2割	名	目標	4	4	4
				実績	0	7	4

備考	
----	--

コスト内訳(円)			R4	R5	R6
収入	特定 財源	一般募金配分金収入 (赤い羽根)	269,420	454,780	331,000
		利用料	510,000	632,400	754,800
	特定財源合計 (a)		779,420	1,087,180	1,085,800
	一般財源 (b)		409,000	469,000	58,420
	収入合計 (c)		1,188,420	1,556,180	1,144,220
支出	事業費 (b)		833,912	1,500,765	1,423,865
	正規職員人件費				2,082,600
		業務量(人)			0.3
	嘱託職員人件費		810,200	1,169,100	904,200
		業務量(人)	0.2	0.3	0.2
	臨時職員人件費				
		業務量(人)			
人件費合計 (e)		810,200	1,169,100	2,986,800	
支出合計 (f)		1,644,112	2,669,865	4,410,665	

単位当たりコスト(円)		R4	R5	R6
単位の定義		利用者、協力員数合計 (名)		
実績数値 (g)		40	53	64
単位当たりコスト(円) (f/g)		41,102.8	50,374.8	68,916.6
実質収支比率(%) (c/f)		72.3	58.3	25.90

実施状況に対する 評価	産後ヘルパー派遣事業の相談や新規利用者が増加した。多胎児や子どもが複数いる世帯等では、産後ヘルパー派遣が終了した後も引き続きふれあいサービス事業を利用する人が複数あった。家族による支援が不十分な子育て世帯では、社協会員同士による助け合い活動が求められている。
	また、令和6年度はふれあいサービス事業協力員の募集を子育て支援ボランティア養成講座において実施した結果、参加者にはふれあいサービス事業の目的や意義等について理解していただいたが、最近では高齢になっても働いている方が多く、昨年度以上の新規登録には至らなかった。また、協力員の高齢化が課題となっており、登録を更新しない協力員も増加している。利用者が増加しても協力員不足では支援につながらないので重要課題となっている。

今後の方向性 【拡充】	<p>社協だよりや市報等で協力員養成講座を積極的に広報・周知し、受講者に協力員の新規登録を働きかける。また、既に登録している協力員に対しては、スキルアップのための研修や意見・情報交換の場を設けることで、知識や技術の向上と課題共有、悩みや不安を解消しやりがいのある活動に繋がるよう支援する。</p> <p>令和7年度より新規事業として産前産後ヘルパー派遣事業を実施し、妊娠中に切迫早産等で医師より安静にするよう指示があり、上の子の世話や家事をすることができない方の支援を行うことで、子育て世帯への支援を拡充する。</p>
----------------	---

令和7年度 事務事業評価表

事務事業名	4 生活支援体制整備事業		担当	地域福祉係	事業種別	市委託事業
開始年度	平成28年度	計画体系	基本目標1-実施計画1-(2)多様な学習機会の提供、実施計画2-(2)見守り活動の推進、実施計画3-(2)各種交流会の開催や参加への支援 基本目標2-実施計画1-(1)地域活動の担い手の確保と後継者の育成、(2)ボランティアの育成支援、実施計画2-(1)ボランティアコーディネート機能の充実、基本目標3-実施計画1-(2)身近で相談しやすい地域づくり、実施計画5-(1)社会福祉法人等の公益活動の促進、(2)民間企業等各種関係組織との連携強化、(3)コミュニティソーシャルワーク機能の強化			
根拠法令等	市受託事業					
事業区分	社会福祉事業	サービス区分	地域福祉サービス区分			
事務事業目的	ふじみ野市で住み慣れた暮らしを続け自分らしい生活を送るために、介護保険サービスのほか、住民主体の支え合い・助け合い活動の創出や、地域資源（人、もの、お金）の発掘、人と人とのつながりをコーディネートしていく。また、地域包括ケアシステムの実現と地域づくりを活性化していく。					
実施内容	<p>生活課題・ニーズの把握・分析・サービスや担い手の創出・ネットワーク化の推進 【地域ケア推進会議への出席】 年1回（3回）（ ）内は前年度数値 【社会資源の把握】 社会資源の把握を日常的に行うとともに地域の生活課題やニーズの把握に努めた結果、地域の方々との関係形成が49回（12回）となった。 【地域活動の創出】 つるがまい協議体で緑ヶ丘立ち寄りカフェ・マルシェ、かすみがおか協議体でベンチプロジェクト、ふくおか協議体で家族で花壇づくりin大原公園、おおい協議体で地域だれでも食堂など住民主体の活動を創出した。12件（11件） 【運営支援】 766回（233回）うち協議体24回（24回） 【通いの場<居場所・活動の場>の立ち上げ支援】 46回（43回） 【会議等への出席】 203回（74回） 【音楽イベント】 夕涼みコンサート 1回（0回） 【多世代交流食堂】 みんなでカレーを食べよう 1回（0回） 【高齢者のファッションショー】 ふじみ野コレクション 1回（0回） 【認知症の人とともに生きる仲間づくり講座】 4回（0回） 【集まれ！スマホマイスター講座】 スマホで桜を撮ろう 1回（0回）</p>					

指標		指標の根拠	単位	区分	R4	R5	R6
活動	第2層協議体の運営支援回数	総合事業のガイドラインによる定期的な情報共有・連携強化の場として市と協議	回	目標	24	24	24
				実績	25	24	24
活動	通いの場の活動の創出支援回数	主体的な活動創出の立ち上げ支援	回数	目標	9	19	24
				実績	14	43	46
成果	活動創出箇所	協議体から生まれた住民の主体的な活動創出	箇所	目標	4	8	12
				実績	4	11	12

備考		活動創出箇所は創出したが途中で無くなった活動もあり、当該年度で活動している件数。			
コスト内訳(円)		R4	R5	R6	
収入	特定 財源	市受託金収入	8,665,825	10,766,000	22,753,500
		特定財源合計 (a)	8,665,825	10,766,000	22,753,500
		一般財源 (b)			
	収入合計 (c)	8,665,825	10,766,000	22,753,500	
支出		事業費 (b)	583,878	850,980	1,317,033
		正規職員人件費	2,442,900	1,563,600	
		業務量(人)	0.30	0.20	
		嘱託職員人件費	5,752,420	7,794,000	16,448,224
		業務量(人)	1.42	2.0	4.0
		臨時職員人件費			
		業務量(人)			
	人件費合計 (e)	8,195,320	9,357,600	16,448,224	
	支出合計 (f)	8,779,198	10,208,580	17,765,257	

単位当たりコスト(円)		R4	R5	R6
単位の定義		活動の創出		
実績数値 (g)		4	11	12
単位当たりコスト(円) (f/g)		2,194,800	928,053	1,480,438
実質収支比率(%) (c/f)		0.987	1.055	1.281

実施状況に対する評価	<p>令和6年度より1圏域1名、合計で4名の生活支援コーディネーター（SC）が配置され、SCが身近な存在として住民の方々から認識されるようになった。</p> <p>また、地域福祉課が主管課となったことで高齢者支援のみならず、地域づくり・まちづくりを目指した活動を行うことで、CSWとの連携はもとより、学校や事業所との連携、住民主体の子ども食堂などとの連携など活動の幅が広がり、ネットワーク化が図られた。サロンDE講師を活用して「ふじみ野コレクション」など新たな地域資源も誕生した。第2層協議体は地域の情報交換会として位置づけ、SCが行った地域支援の回数は関係形成が12回が49回に、運営支援233回が766回に、会議出席74回が203回になるなど増員による効果があった。新たにベンチプロジェクト、家族で花壇づくりin大原公園、地域だれでも食堂などが立ち上がり、それぞれ地域の状況やニーズに基づいた活動を展開している。</p>
-------------------	--

今後の方向性 【継続】	<p>今後は、これまで創出した活動や新たに動き出した住民主体の活動をふじみ野市に根付いた活動として継続していけるように伴走支援を実施していきたいと考えます。また、地域のニーズに応じて第2層の活動を第1層（市全域）の活動として拡げていきたいと考えます。</p>
------------------------	---

令和7年度 事務事業評価表

事務事業名	5. 重層的支援体制整備事業		担当	地域福祉係	事業種別	市委託事業
開始年度	令和4年度	計画体系	基本目標3－実施計画1－（1）相談窓口の充実（2）身近で相談しやすい地域づくり（6）生活困窮者、複合課題を抱えた世帯の支援 実施計画5－（1）社会福祉法人等の公益活動の促進（2）民間企業等各種関係組織との連携強化（3）コミュニティソーシャルワーク機能の強化			
根拠法令等	社会福祉法第106条の3、第106条の4、第106条の5他					
事業区分	社会福祉事業	サービス区分	包括的相談支援事業			
事務事業目的	複雑化・複合化する地域の福祉課題や狭間の課題を包括的に受け止め、分野・属性を越えた総合的な支援を進めるため、生活困窮者自立支援機関を核とし、高齢、障がい、子ども、生活困窮等の多機関が連携する重層的な支援体制の構築を図る。また、支援を要する人と地域のつながりを確保するとともに、これらを地域全体で支える基盤を構築することを通じて、地域福祉を推進する。					
実施内容	<p>【重層会議】（）内は前年度数値</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重層的支援会議開催回数 12回（13回） <p>【多機関協働】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間相談支援件数 新規 6件（9件）、年間個人支援回数 延べ ※566回（1,400回） ・市内社会福祉法人等による相談事業「つながる相談窓口」の実施 30事業所・団体（29事業所・団体） ・ふじみ野市社会福祉法人連絡会の開催 8月実施 9事業所・団体／2月実施 12事業所・団体（8月実施 11事業所・団体／2月実施 13事業所・団体） <p>【アウトリーチ等を通じた継続的支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間相談支援件数 新規 2件（1件）、年間個人支援回数 延べ ※63回（232回） <p>【参加支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間相談支援件数 新規 4件（6件）、年間個人支援回数 延べ ※463回（609回） <p>【地域づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間支援回数 延べ 1,344回（1,280回） ・フードパントリーの実施 7月、12月、多世代交流事業の実施 7月、12月 ・生活支援体制整備事業との連携 6月、11月、3月 ・フードドライブ事業の実施、埼玉県県下一斉フードドライブキャンペーンへの協力 ・地域の居場所「フリースペースふらっと♪」の開催 49回（48回）、参加者 延べ301名（299名） ・ひきこもり対象のパソコン教室の開催 48回（49回）、参加者・見学者 延べ 172名（189名） ・スターバックスコーヒーとの連携 亀久保店パパママカフェ 5回、清見店パパママカフェ 2回 					

指標		指標の根拠	単位	区分	R4	R5	R6
成果	社会福祉法人連絡会の参加団体数	前年度実績	団体	目標	37	39	23
				実績	39	23	21
成果	つながる相談窓口参加事業所・団体数	前年度実績	団体	目標	26	28	27
				実績	28	27	30
活動	年間個人支援回数 ※合計	前年度実績	回数	目標	3113	2061	2241
				実績	2061	2241	1092

備考	
----	--

コスト内訳(円)		R4	R5	R6	
収入	特定 財源	市受託金収入	24,924,717	29,306,200	30,189,500
		特定財源合計 (a)	24,924,717	29,306,200	30,189,500
		一般財源 (b)			
	収入合計 (c)	24,924,717	29,306,200	30,189,500	
支出		事業費 (b)	3,139,161	3,973,820	3,587,431
		正規職員人件費	9,771,600	13,290,600	15,966,600
		業務量(人)	1.2	1.7	2.3
		嘱託職員人件費	688,670	5,066,100	3,164,700
		業務量(人)	1.7	1.3	0.7
		臨時職員人件費			
		業務量(人)			
		人件費合計 (e)	16,658,300	18,356,700	19,131,300
	支出合計 (f)	19,797,461	22,330,520	22,718,731	

単位当たりコスト(円)		R4	R5	R6
単位の定義		年間個別支援回数		
実績数値 (g)		2,061	2,241	1,092
単位当たりコスト(円) (f/g)		9,605.8	9,964.5	20,804.7
実質収支比率(%) (c/f)		125.9	131.2	132.9

実施状況に対する 評価	<p>当事者からの直接の相談、各分野の関係機関や地域住民からの相談に対し、各制度・関係機関をつなぐことや、地域資源を活用するなど、相談者等の自立に向けた支援をした。また、多機関が役割分担、支援の目標について共有し、協働・連携できるように重層的支援会議を毎月開催した。相談者や家族、関係機関、地域からの要請に応じてアウトリーチによる支援、必要に応じて社会参加等に向けての支援、各種制度とのマッチングをし、自立した生活に向けて第一歩を踏み出す後押しをすることができた。</p> <p>地域づくりの推進として、社会福祉法人事業所と連携を強化したことで、つながる相談窓口の実施、埼玉県下一斉フードドライブへの協力、生活支援体制整備事業第2層協議体へ参加する事業所も出てきている。また、スターバックスの地域貢献活動と連携した仕組みづくりを新設し、スタバパパママカフェの運営支援につなげることが出来た。その他、ひきこもりや社会的接点の少ない方の居場所として運営しているフリースペースふらっと♪の参加者減少については、ふらっと♪への参加を経て、就労や障がい福祉事業所利用につながったケースもあることが理由の一つとなっている。</p>
----------------	---

今後の方向性 【拡充】	<p>引き続き複雑化・複合化する相談や制度の狭間の課題を包括的に受け止め、分野・属性を越えた総合的な支援を進めるため、多機関と連携・協働していく。本事業は個別の相談支援が基本となるため、個別支援回数を実態把握のための指標とする。</p> <p>ふらっと♪は現在少数の参加者ではあるが、地域ニーズを感じるため、開催の継続及び新たな参加者獲得に努めたい。地域づくりの推進として、社会福祉法人連絡会における地域貢献活動の充足、仕組みづくり、生活支援体制整備事業第2層協議体と協力してインフォーマル活動の活性化、組織化を図っていく。また、ボランティアセンターと連携し、フリースペースふらっと♪の運営ボランティアのマッチング等を進め、ひきこもり支援への住民理解の促進に努める。また、地域貢献に取り組む民間企業（スターバックス、オリコ、飯能信金、日清紡）や文京学院大学地域連携センターBICSとの継続した連携と、その他新規開拓、官民連携にて支える地域づくりを目指す。</p>
----------------	---